

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>5. 国際交流の推進について</p> <p>平成 22 年度より国際交流部門が市長室に編入されたことは、市長がこれからのまちづくりで国際交流に重きを置いたあらわれであり、非常に期待するところである。平成 21 年度の事業では、外国との親善交流として姉妹都市交流事業を実施しているが、それ以外は主に在住外国人の生活支援、留学生への奨学金の支給など、国内に居住する外国人を側面的に支援するものである。諸外国では地方自治体が国よりも積極的に交流を推し進め、単なる文化交流に留まるのではなく、高度な技術の売り込みを官民一体となって取り組んでいる。</p> <p>本市国際交流の推進では、何を目指していくのかという観点から 2 点伺う。</p> <p>まず 1 点目は、留学生についてである。</p> <p>平成 21 年 5 月の市内留学生は 2,033 人で前年度の 1,821 人からは大幅に増加しているが、実はこの人数、京都の 1 つの大学だけで 2,644 人の留学生が在籍しており、それだけ見れば、国際都市神戸として、決して受入が進んでいるとは思われない。そのような中、本市 21 年度の留学生支援事業では、奨学金の支給や住宅の提供などに要した決算額が 6,000 万円を要したとのことだが、この点についてどのように評価をされているのか、</p>	<p>岸本室長</p>	<p>留学生支援の取り組みについてだが、海外からの留学生は、母国と日本の双方の文化を理解し、帰国後、出身国と神戸とをつなぐ架け橋となる貴重な国際的人材である。本市では、留学生支援の取り組みとして、</p> <p>①市内の篤志家の寄付金を基にした「留学生支援等基金」の運用益を原資に、平成元年度より支給を開始した、月額 8 万円の奨学金制度で、年間 30 名に支給</p> <p>②学園都市の神戸留学生会館や、ポートアイランド及び六甲アイランドの公営住宅の借り上げによる住宅の提供</p> <p>③民間住宅入居の際の敷金貸付</p> <p>④神戸をよく知ってもらうために、市内の文化・社会教育施設、41 施設を無料で見学できるパスの発行</p> <p>⑤卒業後に、市内での起業を希望する留学生等に対して、就労ビザへの切り替え支援などによる起業支援などをこれまで実施してきた。</p> <p>約 6,000 万円の決算額であるが、こうした施策は留学生の神戸での学生生活の充実を図り、安心して勉学に専念できる環境を整える上で大きな役割を果たしていると考えている。また、支援策についても、他の都市に引けを取らない支援水準が確保されていると考えている。</p> <p>留学生数についてだが、平成 22 年 5 月現在の最新の調査では、神戸市内の大学に在籍している留学生の数は、2,440 名、専修学校の留学生 788 名を加えると 3,228 名の留学生が市内で学んでおり、昨年よりさらに大幅に増加している。</p> <p>ご指摘のあった大学、大分県の立命館アジア太平洋大学のことだと思うが、当初より学生の半数を外国人留学生とする方針で</p>

会派名 自民党神戸・たちあがれ日本

質疑者 北山委員

(市長室)

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>2,000 人程度の受け入れ人数がどうかということも含め、伺いたい。</p> <p>つぎに、本年度韓国との国際都市提携が結ばれたのだが、とりわけ大邱とは姉妹都市でなく親善都市として、産業分野を限定し、交流をはじめようとしており、神戸経済にとっても期待するところである。セレモニー的な文化交流にとどまるのではなく、企業間における産業のつながりや市民レベルでの交流の活発化など、積極策を講じていくべきと考えるが、市長室長の見解を伺いたい。</p>		<p>設置されており、外国籍の教員を多数採用し、留学生を呼び込むために海外でも説明会を行っていると聞いている。</p> <p>受け入れ都市としての取り組みについてだが、留学生数は都市の国際化を表わす指標の一つでもあり、留学生数の増加は本市としても望ましいと考えるが、留学生をさらに増やしていくためには、留学生を受入れる大学側の積極的な姿勢と受け入れ体制の整備などにより、留学生にとって魅力ある大学づくりを進めるための大学の自主的な努力が前提となると考えている。</p> <p>こうした大学の取組みを、関係団体や自治体、経済界などが協力して支援し、留学生の受入れ環境の整備に努める必要があると考えている。</p> <p>本市としては引き続き、現在行っている支援をしていくとともに、地域の大学や関連団体、行政機関などで構成される交流組織（神戸大学が事務局をしている兵庫地域留学生交流推進会議）などを通じた各大学の動向把握やニーズ把握に努めるとともに、卒業後、国内での就職や起業を希望する留学生への就職支援セミナーや起業支援策などを支援団体等と協力しながら実施するなど、留学生のニーズに対応する施策の充実を図り、神戸が留学生にとってさらに魅力ある街になるよう一層努力していく。</p> <p>都市間交流についてだが、グローバル化の進展により、海外との交流が一般化してきた中で、海外都市との交流を取り巻く環境は大きく変化している。本市としてはこうした状況の変化に対応し、姉妹都市等との交流においても従来の友好親善交流に加え、相手都市の特性を踏まえた、双方にメリットのある、いわゆる「相互利益型交流」、あるいは、双方の都市が抱える環境・交通問題などの解決のための「課題解</p>

会派名 自民党神戸・たちあがれ日本

質疑者 北山委員

(市長室)

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>(要望)</p> <p>留学生の支援については、今以上に積極的にやってほしい。</p> <p>もっと多くの人たちが神戸を目指してきてくれるような、また、大学側もそれを受け入れるような神戸になってほしいと思う。</p>		<p>決型交流」といった実質的な都市間交流も進めていこうとしているところである。こうした考え方に基づき、本年4月6日には韓国・仁川広域市との間で港湾や観光・コンベンションなどの分野での交流を重視した姉妹都市提携を行い、本年7月23日に韓国・大邱広域市との間で先端医療産業やデザインなどの分野での交流に特化した親善協力都市提携を行ったところである。</p> <p>都市提携や国際交流は、経済や文化など様々な分野で都市間の相互交流を進めることにより、神戸の今後の発展に資することを目的として実施することが大前提である。今後とも、商工会議所などの経済団体や業界団体、市民団体などとも連携し、実質上の交流の成果が上がるよう努めてまいりたい。</p>